

都市景観賞選考総評

選考委員会委員長 志賀 咲穂



3年ごとの都市景観賞、今回で9回になります。前身の姫路市建築文化賞、これは昭和60年に行われたものですが、これを含めると、これまでに表彰された建築物等、39件を数えます。

今回、選ぶに当たりまして、前回までと少し趣向を変えまして、部門別でやっていたものを総合的な評価に基づいた建築景観と、それからまちなみの形成の2分野の選考に変更して募集いたしました。その結果、建築物等から40点、まちなみから1点の計41点の応募・推薦がありました。

8月30日に景観・広告物審議会委員を中心としました10名の選考委員で写真による予備選考と、それから現地調査を行いまして、最終的には委員の総意によって都市景観賞2件、デザイン賞2件を選考いたしました。選考委員会を代表いたしまして、総評とそれぞれの作品のいいところについてご報告をしたいと思います。

今回、都市景観賞には2件、3点の建築物が選考されました。

一つ目は、播州信用金庫北支店及び船場支店です。いずれも交差点や幹線道路沿いに位置し、鋼材を組み合わせたリズム感のある水

平線が際立つ屋根、サッシ、開放感あふれるガラスの壁面、それから道路に面した緑地や駐車場、駐輪場など、それぞれ施設を巧みに計画し、つくられております。背後には北支店の場合は現在の兵庫県立大学環境人間学部ですけれども、旧制姫路高等学校の講堂、船場支店の場合は、船場本徳寺の大屋根が見えるというそういう歴史文化遺産を臨む、そういうふうな場所にあって、高さを抑えた非常に清廉な建物を用意され、それは周辺景観と非常に調和してるということが評価されました。さらに、これまで播州信用金庫で幾つ支店を展開されておりますけれども、その都度、景観に配慮した店舗をつくってこられたということもあわせて顕彰するという意味合いも含めております。

二つ目に、同じく都市景観賞のWDBホールディングス本社ビルですけれども、駅南の都市景観形成地区内、駅南大路に面した事務所ビルです。景観形成の目標に合致した建物として特徴的な縦長の窓のリズム、側面の白い壁に小さな窓をあけたデザイン、そういうふうなものが隣接する建物や歩道の街路樹とも非常に調和し、都会的でシャープな重量感が高く評価されました。

今回は都市景観賞のほかにデザイン賞というものも選びました。これは景観形成において、特にデザイン面ですぐれた点が選考委員から評価されたものです。

calendula (カレンドウラ) は幹線道路から少し入り込んだ住宅地の中で突如あらわれたような白い建物のデザインのもので評価され、同じくセントラルビルディング (広告塔) は、幹線道路沿いのポケットパークの空間に植栽を配し、三角柱の広告塔が存在感を示しているという点が評価されたものです。いずれも

小さいながらその場に新鮮な景観を生み出しているということが評価されました。

一方、まちなみのほうで応募のあった1点、リビオ姫路大津ブルームガーデンのぞみ野は、無電柱化を図った住宅開発地で、地区計画や景観協定等のまちづくりルールが定められ、管理組合や景観協定運営委員会の組織化がなされたところです。大変美しい住宅地が計画されておりますが、まだ町全体の完成まで至っていないということで今回は選考外となりました。今後、管理組合等によって景観維持活動が継続的に力を発揮されることを期待するものです。

最後に、播磨地域の中核都市であり、世界文化遺産姫路城を擁する姫路市は、それらにふさわしい景観形成を推進しなければなりません。この姫路市都市景観賞が市民や事業者の皆様にはいい刺激を与え、今後一層、愛着、親しみ、誇りを感じる美しい町の実現に寄与していくことを願ってやみません。

ありがとうございました。